
Promised Snow

三月やよい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

P r o m i s e d S n o w

【Nコード】

N 6 9 1 3 C

【作者名】

三月やよい

【あらすじ】

サンタ見習いが先輩サンタと子供の願いを叶えます。子供の頃の願い覚えてますか？

（前書き）

季節外れですが涼しくなっただけなら幸いです。

「んじゃ、あのコがお前の試験科目ね」

横浜市青葉区の高級住宅地にあるこれまた目立って大きな屋敷の窓辺でまるでジュリエットのように月を仰いでいる少女・・・おそらくまだ小学１年生くらいの女の子を顎で指し示し先輩は気怠げにタバコをふかした。

「うーす。しかっしでつかい家ですねえ」

俺・・・サンタクロース見習い・蓮太は庭にある大きな桜の木の上から少女の部屋の様子を盗みみていた・・・って俺の職業言ってなかつたら何か変質者みたいじゃね？（笑）
違うよ？俺ロリコンじゃねえよ？（笑）

「ま、父親は会社を３つ経営しているし

母親は有名な美人キャスターだ。

そりや稼ぎもいいだろうし家もデカイだろうよ」

顧客リストである身辺調査書を見ながら先輩はマルボロメンソールをうまそうに吸いながらふうつと煙を吐き出した。

「あ、仁先輩、俺にもタバコ一本下さい」

おらよと俺に投げてくれたタバコは綺麗に軌跡を描き狙ったように俺の口に収まった・・・

ってか狙ったんだよ。

俺らサンタはすこーしだけ超能力つばいの使えるの。

すこーしだけね。

そして木の上なんてこんな目立つところに目立つ男２人がいても通報されたり家のセキュリティシステムが作動したりしないのは普通の人間には俺たちは見えないから。

でもたまに勘がイイ人間がいたりすると気配を感じるらしいよ？
よくわかんないけれど。

俺は昨日までサンタクロース科の専門学校に通っていて今日から卒

業試験を受けに人間界の日本に来た。

試験内容は試験科目として認定されている子供に願い通りのプレゼントを送ること。

25日の朝、試験科目の子供がプレゼントを受け取った時、笑顔になったら合格、喜んでもらえなかったら不合格となる。

でも子供にとっては大事なクリスマス。

ヘタレサンタのせいで嬉しくないプレゼントなんかもらっちゃった
らそのコの一生の思い出になっちゃうかもしれない（笑

ってことでベテランサンタが研修生一人あたりに一人が付いてちゃんと監修し、もしも願ってない方向に行っちゃったときはちゃんとフォローするって決まりになっている。

ってことで本日からテストにはいる俺は実際に人間界に来るのは今日が初めてだ。

あ、でも俺が受け持つ予定だった日本の雑誌やらTVやらメディア系は大抵チェックしているから結構日本通よ？

で、言っておくけれどおれらサンタってよく漫画であるようなじーさんじゃねえぞ？

特にこの超熟練職人サンタの仁先輩は仕事もピカイチけどすげーイケメン。

俺、女だったらきつと惚れていたよ。

あの・・・日本のドーナツツのCMに出てる甘いマスクの男いるだろ？

モデルだか俳優の。

あいつに似てる！

あいつをお兄系にしたカンジ。

まじイケてる。

サンタって言ったら赤い服着て赤い帽子被ってるってのは

某大手飲料メーカー・コ。コー が勝手に作ったイメージだかな！

本物のサンタは別に制服もなく実に自由気まま。

もちろん男ばかりだけ。

中には普通のリーマンみたいにネクタイ締めてスーツなヤツもいるよ（笑）

先輩は細身のダークスーツに黒シャツで何だかホストみてえ俺はクラツシユジーンズにライNSTOONのTシャツという軽装。ね、サンタだって個性が大事だって（笑）

「んじゃ、あのコの部屋入って欲しいプレゼントを聞き出してこようか」

タバコを吸い終わった先輩は携帯灰皿を出し吸い殻をちゃんとその中に捨てた。

もちろん俺もちゃんと持参した携帯灰皿に吸いかけのタバコをもみ消して入れ後始末。

サンタたるもの夢を与える職業だから公共マナーはちゃんと遵守するよ？

そつと幽霊のように壁を抜けて入った少女・・・竜ヶ崎あおいちゃん部屋の壁紙はピンク色の壁紙に白い家具という実に可愛いお部屋だった。

「おねがい、サンタさん。」

今年のクリスマスはパパとママと過ごしたいの。

お願い、雪を降らせて」

あおいちゃんはまだ窓辺で熱心にお祈りをしていた。

「雪・・・って先輩、おれら天気って変えられますかね？」

「ばーか。研修でやっただろ？」

俺らは神や妖精じゃねーんだからそんな技つかえねえよ

俺らにできるのは少しだけ人間に関わることが出来るっただけだよ
所詮幽霊や妖怪と大してかわらねえ存在なのさ」

さ、どうする？

首を軽く振る仕草をした。

何か浮かんでこねえかなあ？

「あ、『パパとママと過ごしたい』って事は・・・

雪が目的ってわけじゃない？」

先輩からもらった調査報告書をもう一度見ると去年のクリスマスの過ごし方の欄には

・24日：家政婦と午後6時まで過ごす

6時から一人で予め家政婦によって用意された

ホールケーキとローストチキンなどの夕食に手を付けず

8時には就寝。

両親は午後11時に母が12時に父が帰宅

・25日：朝起きると枕元にプレゼントの限定プレミアム・デイベアが

おいてあった。（推定価格日本円で25万円）

両親は既に仕事へ。

対象者は家政婦によって保育園に預けられるも保育園でもクリスマス

スに預けられる子供は少なく一日泣いて過ごす。

母親が迎えに来た時間、午後9時。（対象者は既に睡眠中）

「これは・・・そうか・・・

あおいちゃんは去年寂しいクリスマスを過ごしたから

今年はみんなで過ごしたいのか・・・」

ん？じゃあ何で雪？

「そりゃアレだろ。

雪で交通機関が滞ったら会社に行かないかもしれないって
思っただろ」

仁先輩は何だか寂しそうな瞳であおいちゃんを見つめた。

クリスマスは1年の中で一番子供が幸せじゃなくちゃいけない時期
なのにこんな寂しい願い事をする子供がいるって事実がサンタ稼業
をしている仁先輩にとってはツライんだと思う。

それはまだまだ見習いの俺でも同じこと。

「そつだなあ・・・んじゃちょっと悪いけれど・・・ね」

俺は行動を開始した。

基本、先輩は何もしない、しちゃいけない。

俺が行動の全てをこなす。

まず、売れっ子美人キャスターである母親の24日25日のスケジュールを確認した。

これはマネージャーの手帳を盗み見れば実に簡単。

それによると

24日：10時出社

11時より対談する女優Jマネージャーと対談打ち合わせ

13時より女優Jと対談。(2時間程度)

となっていた夜は特別仕事がないらしいがきつと出社したら最後、彼女はずつと仕事をしてしまうだろう。

25日：公休

よっしゃー！母親は何とか確保できそう！！

23日の午後、俺は職場控え室に一冊の絵本を置いておいた。

小さな男の子がクリスマスに親を亡くして泣いていたら同情したサントさんが男の子を養子にするハナシ。

街は浮かれたクリスマススムードの中、一人寂しく夜を迎える子供の

姿がマジ泣ける・・・

そして俺は感情移入しすぎて泣きまくる。

だって俺も全く同じなんだもん。

俺の場合はクリスマス・イブに父親と母親と車で買い物行った帰りに酔っぱらい運転のトラックに衝突されて両親は即死した。

小さかった俺は車のどこかに挟まっていてトラックからの衝撃をモロに受けなくてすんだんだ。小さかっただけじゃなくて後で仁先輩から聞いたんだけれど母親が俺を庇うように背中に全部ガラスの破片とか飛んできた破片とか受けてくれたらしい・・・。

ま、昔話はいいとしてさ。

母親ならこんな話読んだらきつと子供が心配になってすぐに家に帰ってくれるよ・・・ね？

効果があったのかな？

24日に入っていた雑誌対談の相手の大女優Jの愛犬が風邪引いたとかで23日にはもう24日はフリーになったとわかっていたが母親は特別何の用事も入れずにそのまま休暇願を出した。

コレは絵本効果？

わからんがそうだと思うよ、俺は。

そして難関は父親。

父親は毎朝8時に迎えの車が来て会社へ向かう。

日曜日である24日も仕事・・・どこかのお偉いさんとビジネスランチ？だったかなんだかでも通りに迎えが来ていつもの時間には会社に行くらしい。

会社へ足止めするには・・・運転手にイタズラとかしたらその運転手さんがそのせいで解雇なんかされちゃう危険があるから絶対ダメだし・・・
ってことで

「おいっころっとうしたんだ、ポクラ。おいっ！」

24日の朝、家族の飼い犬ゴールデンレトリバーのポクラに事情を話して（俺等、天気は変えること出来ないけれど動物とはお話できるのさ）綺麗好きなポクラに敢えて泥まみれになってもらい父親さんのたかーいスーツをどろんこにしてもっらた（笑
へへーん。着替えの時間くらいは稼げたっ！

あとはどうやって仕事人間の父親を家に引き留めるかだな。

次のイタズラに移ろうとしたとき

「あおい、すまん。起こしちゃったか？」

廊下にはまだパジャマ姿で寝ぼけ眼なあおいちゃんが立っていた。

「パパ・・・あのね・・・」

今日ね、お仕事頑張ってね。

でね、早く帰って来てね・・・あのね・・・

クリスマスは家族で過ごす日なんだって保育園の先生も言ってたんだよ

ウチね、家族なんだよね？

私ね、クリスマスはいいこにしているから一緒に・・・一緒にツリーの

飾り付けしたいよ・・・」

泣きそうだけれどイイコに躡られてきたあおいちゃんは泣いて父親を困らせる事が出来なかったのだろう。

くうーん・・・ポクラもあおいちゃんの事情を察してか何だか哀願するような表情で父親を見つめた。

「今日は・・・」

パパさんの今日の予定なら俺たちは知っている。

ビジネスランチした後は会社の会議そして大物政治家の何とかパーティーと予定ぎっしり。

しかも結構重要度高め予定が入っている。

それを思い出しているのだろう。

声のトーンからもその表情からも娘も可愛いが仕事も大事・・・と悩み抜いている心の内が見て取れる。

「今日は・・・」

寂しそうな声でパパさんがもう一度口をひらいた時。

くうーん。ポクラの切ない鳴き声。

ううん。いいの。あおいちゃんの年の割に大人びた寂しい声色。

その二つが同時に悲しい協和音を奏でる。

（計画失敗か・・・）

俺が苦虫をかみつぶしたような顔になると

「あなた。いいじゃない。」

そこには美人キャスターとしても凄腕報道官としてもない、母としての穏やかな表情をしたママさんがパパさんに声をかけた。

「いいじゃない。たまにはお休みしたって。

だあいじょうぶよ。

貴方はいつも頑張っているんだもん。

たまにお仕事欠席しても周りがちゃんとフォローしてくれるでし

よ？」

がんばり過ぎないでたまには周りにも甘えなくちゃ。

ママさんは泣きそうな顔のあおいちゃんを優しく抱き上げて言った。
「あおい、今日はあおいも幼稚園はお休みしてママと一緒にケーキ作りよ？」

ちゃんとお手伝いしてね」

そう言われた時のあおいちゃんの表情を俺は一生忘れないだろう。
びっくりした表情からまるで大輪の花が咲くような明るい表情へ。

「ママっ大好きーっ」

「ほら、あなたも。」

あおいにパパ大好きって言われないでしょ？」

「・・・そうだな。」

たまにはいいよな」

パパさんもビジネススマンの表情からあおいちゃんのパパの顔に戻り
ポクラの頭を撫でた。

「くーん・・・」

さっきの寂しそうな鳴き声とは違う声でポクラは空を見上げた。

「あ・・・」

「雪！サンタさんが叶えてくれたんだ！」

あ・・・雪だ・・・

灰色の空からはふわりふわりと柔らかそうな雪がまるで鳥の羽のよう
に舞い降りていた。

どうやらぎりぎりで約束が果たせたみたいだ

先輩と俺は顔を見合わせた。

もう大丈夫。

あおいちゃんはきつともう寂しいクリスマスは過ぎさないだろう。

「俺・・・いつか一人前になって

あおいちゃんにまたクリスマスプレゼントを渡しっす」

「ま、試験にパスしたらな。」

実技試験の後はペーパーテストだからしっかり勉強するように。

ちなみにな、俺主席だったから。

その俺に指導されたのに主席以外取ったら・・・埋めるぞ?」
にやり。

先輩の悪魔な笑み。

俺は背中に冷や汗が流れるのを感じた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6913c/>

Promised Snow

2010年10月9日01時41分発行